

～ 学芸員レポート ～ 出前講座に行ってきました！

【三次小学校で《稲生物怪録》学習】

平成30年1月26日(金)に三次小学校4年生38名を対象に、三次市に伝わる物語《稲生物怪録》をメインとした、妖怪について学ぶ郷土学習を行いました。稲生平太郎の弟子(自称)を名乗った学芸員が、子どもたちとコミュニケーションをとりながら、楽しく妖怪を学ぼう!と授業を行いました。「妖怪ってなんだろう」や、《稲生物怪録》のお話を紹介しながら、妖怪クイズやオリジナルの妖怪を考えたりしました。子どもたちからは「稲生物怪録を知らない人にもくわしく教えてあげたい」や「妖怪博物館を楽しみにしている」といった感想や、妖怪に関する質問をいただきました。今後子どもたちに妖怪について学べる機会を作っていけたらと考えています。



◀ 刀をさした武士姿で登場! 気になる子どもたちの反応は... ものけ侍にみんな大盛り上がりでした!!



◀ 神楽に出てくる妖怪について『土蜘蛛』や『酒呑童子』などに「妖怪が出るの知ってる! 見たことある!」と元気に答えてくれました。

【観光ボランティアガイド研修 in 作木収蔵室】

平成30年1月27日(日)に、作木山村開発センター内にある作木収蔵室に、観光ボランティアガイド研修の方が見学にいられました。まずは、妖怪博物館や稲生物怪録など妖怪の講義をして知識を深めてもらいました。収蔵室へ移動してからは、博物館の役割や資料保存の仕事などを説明し、実際に資料を何点か公開したものを見ていただきました。参加者からは「妖怪たちが面白くて、意外と可愛い」や「実際に見ることが出来て、もっと妖怪を知りたくなった」などの感想をいただきました。



◀ 妖怪や《稲生物怪録》の魅力、妖怪文化が私たちの日常にどう広がっていかを紹介しました。



◀ マスクの着用をお願いすると、参加者の皆さんは少し緊張されていましたが、実際に資料を見始めると興味津々でご覧になっていました。

博物館(三次地区拠点施設) ニュース

名古屋で、湯本豪一コレクション展が開催決定!!
「妖怪・ミイラ展 ～浮世絵から幻獣ミイラまで～」

初公開の絵巻・錦絵から河童や人魚のミイラまで、湯本豪一コレクションから厳選した資料を展示します。妖怪ファンはもちろん、ご家族の方々皆さんで楽しめるイベントになっています。

日時:平成30年4月21日(土)～5月13日(日)
10:00～21:00(最終入場20:30)
※最終日は19:00まで(最終入場18:30)
場所:名古屋パルコ西館8階 パルコギャラリー
(愛知県名古屋市中区栄3-29-1)
料金:当日一般1,000円 高校生・中学生800円
小学生以下600円 3歳未満は無料
主催:テレビ愛知



© 妖怪・ミイラ展
～浮世絵から幻獣ミイラまで～ 2018

怖いもの見たさが
満たされる!!

もののけメールマガジン
会員募集中!

「もののけ(妖怪)」や当博物館に興味のある方を対象に、メールマガジンの配信をしています。ご希望の方は、下のQRコードを読み込み、登録手続きを行ってください。
※ドメイン「@y.bmd.jp」を受信設定してください。

登録してね!!



【問い合わせ】

広島県三次市政策部 三次地区拠点施設開設準備担当
TEL:0824-62-6158 FAX:0824-62-6137

平成31年春 開館 (仮称) 湯本豪一記念日本妖怪博物館
(三次もののけミュージアム)

博物館で
会おうね!!



～妖怪を生かした文化・観光まちづくりをめざして～

もののけだより

vol.4 平成30年3月

三次地区拠点施設の展示設備等の整備を行う 事業者が決定しました!

平成30年2月19日(月)、三次コミュニティセンター(三次ふれあい会館)において、三次地区拠点施設の展示設備等整備の受託候補者を選定する公開ヒアリングを実施しました。この結果、株式会社トータルメディア開発研究所(東京都千代田区)を受託者として決定しました。

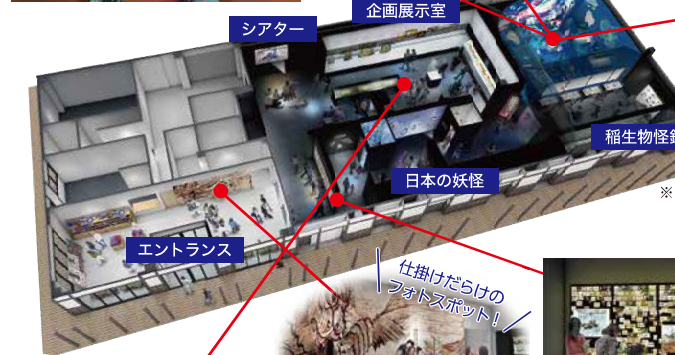
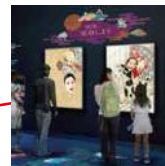
受託者の提案について、展示のストーリー性や独自性のほか、体系的な妖怪資料の展示と映像を生かした多彩な体験型展示を組み合わせた手法が評価されました。今後、提案内容を基に受託者と協議しながら展示内容を決定していきます。

～ 提案内容の一部を紹介します～

【妖怪の住まう黒板】
黒板の中に住んでいる妖怪と自由に遊ぶことができます



【お絵かき妖怪】
お絵かきした妖怪が、大画面の中で自由に動いたり踊ったりします



シアター

企画展示室

妖怪ワンダーランド

稲生物怪録

日本の妖怪

エントランス

仕掛けだらけの
フォトスポット!

【妖怪と撮影】
妖怪を連れて帰る! SNSと連動したサイネージ型カメラ

※「SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス):インターネット上で社会的ネットワークの構築を可能にするサービス



【妖怪展示室】
多彩なコレクションを展示します



【日本妖怪大図鑑】
妖怪資料のデジタルデータを大迫力で閲覧できます

《稲生物怪録》ゆかりの地めぐりレポート

《稲生物怪録》は、江戸時代後期に実在した広島藩士の稲生武太夫（1734～1803）が、三次で平太郎と名乗っていた少年時代に体験したとされる物語で、30日間にわたり出現する様々な妖怪や怪異に耐え抜いたとされています。《稲生物怪録》を今に伝えるゆかりの地を紹介します。



いなり 稲生神社で初詣

稲生神社（広島市南区）は、元和5（1619）年に創建されたとされる神社で、商売繁盛の稲荷社で信仰されています。享保18（1733）年に起こった大火事の際に焼失を免れたことから、火災除けの守護としても信仰を集めています。

《稲生物怪録》の主人公、稲生武太夫が祭神として祀られており、魔除け・厄除け・強運の御守護になっています。

この神社には、水木しげる氏や荒俣宏氏、京極夏彦氏も訪れています。



◀神社入口の看板には、三次の《稲生物怪録》が紹介されています。



榎をかたどった魔除けのお守り

ほんしょうじ 本照寺で稲生家墓参り

ビル群の中に、ひっそりとたたずむ本照寺（広島市中区）に、稲生家の墓があります。三次市が所蔵する『三次実録物語』は当家に伝えられていたものです。

※《稲生物怪録》は、江戸時代の三次を舞台に繰り広げられる、稲生平太郎（後の武太夫）を主人公とした物語の総称です。このなかには、柏正甫が綴った『柏本』や本人が書いたという形式の『三次実録物語』等があり、絵本や絵巻など様々なかたちで広く伝播しました。



稲生武太夫の墓：写真中央



こくぜんじいのうさい 國前寺稲生祭

國前寺（広島市東区）では、毎年1月7日に「稲生祭」が開催され、年に一度「榎」が開帳されます。この「榎」は、物語の終わりに魔王が平太郎に授けたとされるものです。その後、武太夫こと忠左衛門正令（最晩年の名乗り）は、晩年、國前寺に「榎」を奉納したと言われています。

これを開帳し、法要を行う稲生祭は、毎年300人以上の人が集まる行事となっています。

今回は、(仮称)湯本豪一記念日本妖怪博物館のアドバイザー委員であり、連続講座で稲生物怪録について講演いただいた杉本好伸さんに、妖怪資料や三次市への思いをお聞きしました。



私が《稲生物怪録》の研究を進めようと思うようになったきっかけは、さまざまな要因がありますが、その一つに「広島の方がどなたも正面から取り組もうとされていない」ということがありました。自ら進んで、諸本を紹介しようとする方などおられなかったのです。そこで、三次に研究所を設け、ぜひ研究を進めてほしいと思い、広島県立歴史民俗資料館元館長の植田千佳穂さんに研究所の看板を立ち上げてほしいと冗談めかして何度も申し上げたりしておりました。

それが今回、湯本先生のご厚情により、思っても見ぬ方向から誕生することになりました。もちろん博物館は、《稲生物怪録》の研究だけではなく、有難いことにもっと広く研究していく視点ができることになるわけです。まだ諸本の全体像を明らかにできていませんが、あとは、私が細々と積みあげてきたものを、どなたかが継承し、私の考えに修正を施しながら更なる積みあげをしてくださることを願うのみ。やるべきことは、まだいっぱいあります。博物館誕生を契機に、そうした方が現れること、それが心からの願い、これからの最大の楽しみでもあります。「若い方、待っていますよ！」

【杉本好伸さんの経歴】

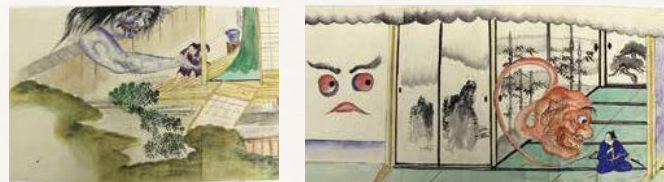
1951年京都市生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。「安田女子大学文学部教授」および「安田女子大学大学院文学研究科「日本語学日本文学専攻長」および「言語文化研究所所長」を経て、平成26年3月定年退職。現在、「安田女子大学名誉教授」。専門は井原西鶴、《稲生物怪録》の研究にも日々尽力され、関連著書も出版されている。

【著書】『日本推理小説の源流 本朝校陰比事』 編著『稲生物怪録絵巻集成』『聖徳太子伝』 共編著『安倍晴明』『近世民間異聞怪談集成』『浮世草子大事典』『気楽に江戸奇談！ RE:STORY 井原西鶴』 編集協力『改訂版 妖怪いま甦るー《稲生物怪録》の研究ー』 ほか



湯本豪一コレクション紹介

今回は、湯本コレクションの中にある《稲生物怪録》に関する資料を一部紹介します。



「百物語絵巻 全二巻」(部分) 明治時代

内容は《稲生物怪録》の話が描かれており、登場する妖怪たちも特色をもった姿で描かれている。(左)一日目の平太郎が怪物に掴まれる怪、(右)三十日目のミズを出す妖怪の怪。

ぼくは、12日目に現れるつづらが化けたカエルのフィギュアだよ



平成時代



「無題」(仮)『稲生物怪録』(部分) 江戸時代
稲生物怪録の絵本から絵の部分だけが貼り込まれた本。残念ながら文は残されていないが、妖怪や怪異が丁寧に描かれている。



「八百八狸」杉浦茂著 昭和時代
いたずらをする狸たちを、祖先から受け継いだ木植で、稲生平太郎がこらしめるコメディ漫画。日本の少年漫画雑誌「少年画報」のふるく。